

やってみよう!! ワークシート



新聞には毎日、たくさんの記事や写真、広告がのっています。世界的な大ニュースから身近な地域の話までさまざまです。神戸新聞社は、その中から知ってもらいたいことや深く考えてほしい記事を取り上げ、ワークシートを作って自宅学習などに活用してもらっています。今回は、地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)を吸収してもらうため、海草や海藻などを増やそうという取り組みのお話です。



浜山小学校の児童が半年かけて育てたアマモの苗＝神戸市兵庫区材木町(撮影・小林良多)



神戸の児童 アマモ保全活動 温暖化防げ 海で育む「森」

地球温暖化の原因となる二酸化炭素(CO₂)の吸収源として、浅水域の海草や海藻などを活用する「ブルーカーボン」の取り組みが、新たな気候変動対策として注目されている。藻類などを増やすことで、森林のようなCO₂の削減効果が期待されるからだ。「(海草の)アマモはなんでも大切なんだっけ?」「魚のすみかになるし、CO₂も吸収してくれるから!」。4月中旬、神戸市兵庫区の兵庫

運河で、市立浜山小学校の5年生が講師の問い掛けに答えていた。この日は、20〜30センチほどのアマモの苗を運河に植えた。アマモの役割を学び、半年かけて自分たちで種から育てたものだ。協力したのは、地元の兵庫漁業協同組合の漁師ら。10年以上前から地域を挙げて兵庫運河の環境改善に取り組

み、近年は国や市が人工干潟を整備した。一帯の海中にはアマモの群生が広がり、同漁協の井上隆司さん(45)は「8年前に少し植えたものが、これほど広がっていたとは」と驚く。今、同漁協や同小などが取り組む藻場の保全活動は、地球温暖化対策として神戸市や国も支援する。ブルーカーボンは海草などが光合成の働きで吸収する炭素をいい、2009年、国連環境計画の報告書で命名された。森林による「グリーンカーボン」とともに、政府は脱炭素社会実現に向けた「グリーン成長戦略」に推進方針を明記する。

市内では近年、神戸空港島の護岸でワカメやシタモクなどの藻場が確認された。植物が育ちやすいよう緩やかな傾斜になっていたため、21年度、市は同様の造りになっているポートアイランド2期周辺も併せて本格調査に着手した。(初鹿野俊、石沢菜々子)

5月2日の朝刊にのった記事

①気候変動対策として二酸化炭素(CO₂)の削減を目指すのはなぜですか

②神戸市立浜山小学校の5年生はどんな取り組みをしていますか

③取り組みの結果、どうなりましたか

④浜山小のように、海草や海藻などの光合成の働きでCO₂を吸収する取り組みを何と呼びますか

⑤こうした海での取り組みと同じように、森林で行う取り組みは何と呼ばれますか

⑥みなさんは普段、CO₂の削減を考えたことはありますか

答えは22日の「週刊まなびー」にのるよ。



もっとワークシートをやってみたいと思った人は、電子版「神戸新聞NEXT」の「神戸新聞NIE」コーナーでワークシートを検索してみてください。たくさんあるので興味のある新聞記事を選んでね。今回のワークシートの答えは、メール(kobe-nie@kobe-np.co.jp)か、はがき(〒650-8571 神戸新聞社「週刊まなびー」ワークシート係)で、名前と学年、または年齢を添えて5月21日必着で送ってね。正解者の中から、抽選で毎月10人に神戸新聞の記念品をプレゼントします。

8日週刊まなびー

ワークシートの
解答例

- ①2021年は最盛期(6~8月)の漁獲量が2017年のわずかに約15%▽2021年は最盛期(6~8月)の漁獲量が前年と比べて2割程度ーなど
- ②通常はタコが穴に入る習性を利用した「タコつぼ漁」に使われるが、今回はタコが中に入って産卵(繁殖)するために沈めた
- ③抱卵したタコの放流▽「栄養塩」と呼ばれる窒素やリンが残った処理水放流を可能にする法改正を求めた
- ④タコ釣りがレジャーとして人気になり、釣りあげられるタコが増えたことが一因
- ⑤自由記述(例=タコが生息する明石海峡や海底の環境の変化など)